

Solid-State Memory Camcorder

PXW-FX9V/PXW-FX9VK

PXW-FX9T/PXW-FX9TK

バージョンアップ情報 / Release Notes / Notes de publication / Freigabemitteilung /
Note di rilascio / Notas de la versión / Заметки о выпуске / 发行通知

Version 4.0で更新された主な機能

C3 Portalとの連携強化

- 3D LUTファイルのクラウドサービス管理に対応しました。
アプリケーションで作成した3D LUTファイルをクラウドサービスからカメラにインポートすることが可能になります。気に入った3D LUTファイルをクラウドサービスで管理することができます。
- Allファイルのクラウドサービス管理に対応しました。
カメラのAllファイルをクラウドサービスに保存したり、クラウドサービスからカメラに読み出したりすることができます。これにより、複数の異なるAllファイルをクラウドサービス上で管理することが可能になります。
- オリジナルファイルの自動転送に対応しました。
これまで撮影コンテンツのバックアップ生成は、撮影完了後にまとめて行うためバックアップ用の時間確保が必要でしたが、オリジナルファイルの自動転送機能により、1クリップ撮影後に自動的にクラウドサービスにバックアップすることができます。

撮影ワークフローの改善

LUTデータ (Cubeデータ) をメタデータとして記録できるようになりました。
記録メディアに収録する際に、撮影時のモニター映像に適用していたLUTデータ (Cubeデータ) を同時に保存することが可能になりました。これにより後処理工程でLUTデータの紐づけを管理する手間を削減することができます。

オーディオレベルメーターのCH1/CH2とCH3/CH4表示切り替え対応

画面に表示されるオーディオレベルメーターをAudioメニューのAudio Output > Monitor CHの設定に連動してCH1/CH2表示とCH3/CH4表示を切り替えられるようになりました。

音声モニターチャンネル切り替えのアサインブルボタン対応

音声モニターのチャンネル設定をアサインブルボタンに割り当てられるようになりました。Audio Monitor CHとAudio Mon. CH Switchを割り当てることで任意の音声モニターチャンネルを選択できます。

アサインブルボタンの点灯対応

アサインブルボタンに割り当てた機能が有効になったときなどに、アサインブルボタンに内蔵されているLEDが点灯するようになりました。点灯仕様については取扱説明書をご確認ください。

スロー&クイックモーション設定切り替え時のプロキシ記録排他制御変更

プロキシ記録がOnのときにスロー&クイックモーションをOnにするとプロキシ記録が一時的にOffとなりますが、スロー&クイックモーションをOffにすると再びプロキシ記録がOnになるように制御方法を変更しました。

Version 3.0で更新された主な機能

イメージースキャンモードの選択肢を追加

- ProjectメニューのRec FormatのImager Scan ModeにS16 2Kを追加しました。
S16 2Kでは、ビデオフォーマットの1920×1080Pと1920×1080iが選択できます。また、スロー&クイックモーション撮影時のフレームレートを1～60、100、120、150、180fpsから選択できます。

[ご注意]

S16 2Kにて150fps以上のフレームレートで初めて撮影する際には、ShootingメニューのAuto Black Balanceを実施してください。

- LA-EB1 (別売) に対応しました。LA-EB1を装着してImager Scan ModeをS16 2Kに設定することで、B4レンズを使用することが可能になります。

[ご注意]

LA-EB1 (別売) を使用する場合は、XDCA-FX9 (別売) を本機に装着してDC OUT端子 (丸型4ピン) とDC IN端子を付属のDCケーブルで接続してください。

- アサインブルボタンにCrop Selectを割り当てることで撮影画角の変更が容易に行えるようになります。

Ethernet経路によるS700プロトコルに対応

本機にXDCA-FX9 (別売) を装着し、有線LAN端子に接続したLANケーブルをリモートコントロールパネルに接続することで、リモートコントロールパネルから本機の撮影操作が可能になります。

対応するリモートコントロールパネルは以下のとおりです。

- RCP-1500/1501/1530
- RCP-3100
- RCP-3500/3501

オートフォーカス機能の改善

- 特定の被写体を指定して追尾するリアルタイムトラッキングAFに対応しました。
AF中だけでなくMF中でもリアルタイムトラッキングAFを使用することができます。
- マニュアルフォーカス時にタッチ操作で指定した位置の被写体にフォーカスを合わせるスポットフォーカスに対応しました。
ShootingメニューのFocusのTouch Function in MFをSpot Focusに設定すると、使用できます。
- マニュアルフォーカス中に基準となるフォーカスポジションからの移動量を示すフォーカスマーカーに対応しました。

ステータス画面の機能改善

- 表示するステータス画面を選択できるようになりました。
TechnicalメニューのStatus Page On/Offでステータス画面の表示/非表示を切り替えることができます。
- ステータス画面上で設定を変更できる項目を追加しました。追加した項目は以下のとおりです。
 - メインステータス画面 : S&Q Frame Rate
 - カメラステータス画面 : Zebra1、Zebra2
 - プロジェクトステータス画面 : Rec Function、Picture Cache RecのCache Rec Time、Proxy RecのProxy Format

- メインステータス画面およびモニタリングステータス画面のMonitor LUTの選択肢に、プリセットLUTとユーザー LUTをまとめて表示するように改善しました。

Camera ID+Reel#形式のファイル名に対応

TC/MediaメニューのClip Name FormatのAuto NamingにCam ID + Reel#を追加しました。

Camera ID、Reel Number、Camera Positionを設定することで管理しやすいユニークなファイル名を生成することができます。

ビューファインダーでのDe-Squeeze表示に対応

MonitoringメニューのVF Settingで、De-Squeezeの設定ができるようになりました。

2.0xまたは1.3xのアナモフィックレンズでの撮影時に、デスクイーズした映像をビューファインダーで見ることができます。

HDR撮影時のビューファインダー簡易SDR表示に対応

簡易SDR表示により、SDR撮影と同様の露出調節の感覚でHDR撮影を行えます。

— ProjectメニューのBase SettingのShooting ModeをHDMIに設定し、HDR SettingのVF SDR PreviewをOnにすることでビューファインダー映像にSDR Gainが適用されます。

— HDR SettingのSDR Gainを変更することで、収録されるHDR映像の明るさをコントロールすることができます。

プロキシファイルのメタデータ情報を拡張

同時記録される本線映像のフォーマット情報をプロキシファイルのメタデータ情報として記録するようになりました。

プロキシファイルの分割記録・転送に対応

同時記録されるプロキシファイルを記録中から転送できるように一定の時間でファイルを分割して記録し、分割されたプロキシファイルを順次転送できるようになりました。

C3 Portal Appを用いたC3 Portalとの簡単接続に対応

スマートフォンアプリ「C3 Portal App」と連携して、クラウドサービス「C3 Portal」へのファイル転送を簡単に行えるようになりました。

ネットワーク機能のユーザー /パスワード管理を改善

NetworkメニューのAccess Authenticationに、自動生成 (Generate Password) と設定表示 (Show Settings) を追加しました。

【ご注意】

本アップデートにより、設定済みのパスワードは消去されます。

Version2.1で更新された主な機能

3840×2160のRAW出力に対応

XDCA-FX9 (別売) を本機に装着して可能になるRAW出力で、RAW Output Formatに3840×2160が追加されました。

Imager Scan ModeがS35 4KでCodecがRAWのときに選択可能です。また、RAW Output Formatが3840×2160の場合、スロー&クイックモーションを有効にしてフレームレートを100Pおよび120Pに選択することができますようになりました。

White Balance調整の改善

太陽光下でのWhite Balance調整がやりやすく、より自然な色に調整できるように改善しました。

Version 2.0で更新された主な機能

記録フォーマットの選択肢を追加

- ProjectメニューのRec FormatのImager Scan ModeにFFcrop 5Kを追加しました。
- Imager Scan ModeでFF 6K、FFcrop 5KまたはS35 4Kが選択されているときに、Video Formatを4096×2160に設定できるようになりました。
- ProjectメニューのRec FormatのFrequencyに24を追加しました。

【ご注意】

選択できるImager Scan ModelはFF 6K、FFcrop 5KまたはS35 4Kで、Video Formatは4096×2160のみ対応しています。

User 3D LUTに対応

RAW ViewerやBlackmagic Design Pty. Ltd. 製DaVinci Resolveで生成される17格子または33格子のCUBEファイル (*.cube) をインポートできるようになりました。

RAW出力に対応

本機に取り付けたXDCA-FX9 (別売) のRAW OUT端子からRAW動画信号を出力できるようになりました。

ハイダイナミックレンジ (HDR) に対応

Hybrid Log Gamma(HLG)に対応し、ダイナミックレンジを拡大した撮影が可能になりました。

HLGは次の2種類から選択できます。

— Natural : ITU-R BT.2100(HLG)に準拠した特性があります。

— Live : ITU-R BT.2100(HLG)に準拠し、よりHDRの効果を引き出す特性があります。

HDR設定時、色域はITU-R BT.2020相当に拡張されます。

スロー & クイックモーションのフレームレート追加

ProjectメニューのRec FormatのImager Scan ModeがFF 2Kのときの対応フレームレートとして、150fpsと180fpsを追加しました。

ISO/Gain設定可能範囲を拡大

ProjectメニューのBase SettingのShooting ModeがSDRまたはHDRのときのISOおよびGainの設定可能範囲を拡大しました。

—ゲイン設定モードがISOの場合は、最大ISO 102400まで設定可能になりました。

—ゲイン設定モードがdBの場合は、27dBまで設定可能になりました。

AF機能の改善

- 人の顔だけでなく瞳も検出してフォーカスを合わせることができるようになりました。
- フォーカスエリアがFlexible SpotもしくはZoneのとき、タッチ操作でフォーカスエリア枠を移動させることができるようになりました。
- AFトランジション速度とAF乗り移り感度設定をアサイナブルボタンに割り当てられるようになりました。
- Cine EIモード時やGammaをS-Log3に設定したときの顔/瞳検出AFの性能を向上させました。

ステータス画面での設定変更に対応

ステータス画面にて一部設定値の変更を可能にしました。マルチファンクションダイヤルやマルチセクターで項目を選択したり、タッチ操作での選択も可能です。

6G SDI出力に対応

システム周波数が29.97、25、24、23.98のときに、SDI OUT端子から4K/QFHDの解像度の信号が出力できるようになりました。

Audio機能の改善

- 本機に取り付けたXDCA-FX9 (別売) のワイヤレスレシーバー挿入部にポータブルワイヤレスチューナーを装着してワイヤレスマイクを使用できるようになりました。対応するポータブルワイヤレスチューナーは次の2種類です。
 - UHFシンセサイザーダイバーシティチューナー URX-S03D
 - デジタルワイヤレスレシーバー DWR-S02DN
- 本機のマルチインターフェースシューに装着するXLRアダプターキットXLR-K3Mのデジタルオーディオインターフェースに対応しました。

USBテザリングに対応

本機に取り付けたXDCA-FX9 (別売) とスマートフォンをUSBケーブルで接続し、スマートフォンの回線を使用してインターネットに接続できるようになりました。

アイリスのT値表示に対応

T値表示に対応しているレンズを装着したときにアイリス表示をT値で表示可能になりました。

パスワードセキュリティの強化

セキュリティ強化のため、Basic認証に使用するパスワードに8文字以上の英数字をそれぞれ1文字以上使用することを必須としました。

イメージースキャンモードS35 2K時の画質改善

ProjectメニューのRec FormatのImager Scan ModeでS35 2Kを選択しているときの画質を改善しました。

Major Functions Updated in Version 4.0

C3 Portal integration improvements

- Cloud service management of 3D LUT files is supported.
You can now import a 3D LUT file generated by an application from the cloud service into the camera. This allows you to manage your favorite 3D LUT files using the cloud service.
- Cloud service management of ALL files is supported.
You can save a camera ALL file to the cloud service and load the file from the cloud service into the camera. This allows you to manage multiple different ALL files using the cloud service.
- Uploading an original file automatically is supported.
Previously, it was necessary to block out time for creating backups, because backups usually had to be done collectively after shooting was completed, but the automatic transfer function of original files enables original files to be backed up to the cloud service after shooting each clip.

Shooting workflow improvements

LUT data (Cube data) can now be recorded as metadata.
When recording to recording media, the LUT data (Cube data) applied to the monitor image when shooting can now be saved at the same time. This allows you to save time managing the LUT data linkage in the post-processing process.

Audio level meter CH1/CH2 and CH3/CH4 indicator switching support

The audio level meter displayed on the screen can now be switched between CH1/CH2 indicator and CH3/CH4 indicator using Audio Output >Monitor CH in the Audio menu.

Assignable button support for switching the audio monitor channel

The audio monitor channel setting can now be assigned to assignable buttons. You can select any audio monitor channel by assigning Audio Monitor CH and Audio Mon. CH Switch.

Assignable button LED indication support

The LED built into each assignable button can now indicate when the function assigned to the assignable button becomes active or in other cases. For details about the LED indication, refer to the Operating Instructions.

Changes to proxy recording control when switching Slow & Quick Motion settings

When Proxy Rec is On and S&Q Motion is set to On, Proxy Rec is temporarily set to Off.
When S&Q Motion is set to Off, Proxy Rec is set to On again.

Major Functions Updated in Version 3.0

Added imager scan mode selection options

- An S16 2K option has been added to Rec Format >Imager Scan Mode in the Project menu. S16 2K can be selected when the video format is 1920×1080P and 1920×1080i. Frame rates 1 to 60, 100, 120, 150, and 180 fps can be selected for Slow & Quick Motion shooting.

[Note]

Before shooting in S16 2K at frame rates above 150 fps for the first time, run Auto Black Balance in the Shooting menu.

- LA-EB1 (option) is supported. A B4 lens can be used when an LA-EB1 is attached and Imager Scan Mode is set to S16 2K.

[Note]

To use an LA-EB1 (option), attach an XDCA-FX9 (option) to the unit and connect the supplied DC cable between the DC OUT connector (round, 4-pin) and the DC IN connector.

- The shooting angle of view can be changed quickly using an assignable button assigned with the Crop Select function.

S700 protocol is supported via Ethernet

Shooting operations can be controlled from a remote control panel by attaching an XDCA-FX9 (option) to the unit and connecting a LAN cable between the wired LAN connector and the remote control panel.
The following remote control panels are supported.

- RCP-1500/1501/1530
- RCP-3100
- RCP-3500/3501

Auto focus function improvements

- Realtime tracking AF of a specified subject is supported.
Realtime tracking AF can be used during MF in addition to during AF.
- During manual focus, spot focusing on a subject in a position specified by touch operation is supported.
When Focus >Touch Function in MF in the Shooting menu is set to Spot Focus, this method can be used.
- During manual focus, a focus marker is supported which indicates the movement from the reference focus position.

Status screen function improvements

- The individual status screens can be selected for display.
You can show/hide the status screen using Status Page On/Off in the Technical menu.
- Items for selecting settings have been added to the status screens. The following items have been added.
 - Main Status screen: S&Q Frame Rate
 - Camera Status screen: Zebra1, Zebra2
 - Project Status screen: Rec Function, Picture Cache Rec >Cache Rec Time, Proxy Rec >Proxy Format
- Preset LUT and user LUT selection options for Monitor LUT are displayed together on the Main Status screen and Monitoring Status screen.

Camera ID + Reel# format file naming is supported

The Cam ID + Reel# option was added to Clip Name Format >Auto Naming in the TC/Media menu.
Specifying Camera ID, Reel Number, and Camera Position allows you to create easy-to-manage, unique file names.

De-squeeze display in the viewfinder is supported

De-Squeeze can be configured using VF Setting in the Monitoring menu. The de-squeeze image can be viewed in the viewfinder when a 2.0× or 1.3× anamorphic lens is attached.

Simple SDR viewfinder display is supported when shooting in HDR

The simple SDR display enables shooting in HDR with the same exposure adjustment feeling as when shooting in SDR.

- When Base Setting >Shooting Mode is set to HDR and HDR Setting >VF SDR Preview is set to On in the Project menu, the SDR Gain setting is applied to the viewfinder image.
- The brightness of the captured HDR image can be controlled by changing the HDR Setting >SDR Gain setting.

Extended proxy file metadata information

The format information for the main image is also recorded as metadata information for the proxy file.

Recording and chunk file transfer of proxy files is supported

A proxy file recorded simultaneously can be recorded in chunks of a set duration and the chunk proxy files can be transferred in sequence while recording is still in progress.

Simple C3 Portal connection using C3 Portal App

Files can be easily transferred to the C3 Portal cloud service by linking the unit with the “C3 Portal App” smartphone application.

User name/password improvements for network function

Auto generate (Generate Password) and display setting (Show Settings) options have been added to Access Authentication in the Network menu.

[Note]

Updating the unit will delete the configured password.

Major Functions Updated in Version 2.1

3840×2160 RAW output support

Support for 3840×2160 has been added to RAW Output Format for the RAW output function that is enabled when an XDCA-FX9 (option) is attached to the camcorder. This can be selected when Imager Scan Mode is set to S35 4K and Codec is set to RAW. Also, when RAW Output Format is set to 3840×2160, Slow & Quick Motion can be enabled with the frame rate set to 100P or 120P.

White Balance adjustment improvement

The White Balance adjustment in sunlight has been made easier, and can also be adjusted to a more natural color.

Major Functions Updated in Version 2.0

Added recording format selection options

- An FFcrop 5K option has been added to Rec Format >Imager Scan Mode in the Project menu.
- When Imager Scan Mode is set to FF 6K, FFcrop 5K, or S35 4K, Video Format can now be set to 4096×2160.
- A “24” option has been added to Rec Format >Frequency in the Project menu.

[Note]

Video Format setting of 4096×2160 is supported only when Imager Scan Mode is set to FF 6K, FFcrop 5K, or S35 4K.

User 3D LUT support

A CUBE file (*.cube) for a 17-point or 33-point 3D LUT created using RAW Viewer or DaVinci Resolve (by Blackmagic Design Pty. Ltd.) can now be loaded.

RAW output support

RAW video signal can be output from the RAW OUT connector of an XDCA-FX9 (option) attached to the camcorder.

High Dynamic Range (HDR) support

Hybrid Log Gamma (HLG) is supported to enable shooting with expanded dynamic range.

The two following types of HLG are available.

- Natural: Characteristic conforming to ITU-R BT.2100(HLG).
- Live: Characteristic conforming to ITU-R BT.2100(HLG) that delivers improved HDR performance.

When HDR is selected, the color space is expanded to ITU-R BT.2020 equivalent.

Added frame rate options for Slow & Quick Motion

150fps and 180fps options have been added for the frame rate when Rec Format >Imager Scan Mode in the Project menu is set to FF 2K.

Expansion of ISO/Gain configurable range

The configurable range for ISO and Gain when Base Setting >Shooting Mode in the Project menu is set to SDR or HDR has been expanded.

- When the gain setting mode is set to ISO, values up to the maximum ISO 102400 can be configured.
- When the gain setting mode is set to dB, values up to 27dB can be configured.

AF function improvements

- Focusing is now supported not just for face detection but also using detection of people's eyes.
- When Focus Area is set to Flexible Spot or Zone, the focus area frame can now be moved using touch operation.
- AF transition speed and AF subject shift sensitivity can now be assigned to assignable buttons.
- In Cine EI mode, face/eye detection AF performance has been improved for when Gamma is set to S-Log3.

Support for changing settings from the status screen

Some settings can be modified from the status screen. Items can be selected using the multi-function dial, multi selector, or by touch operation.

6G SDI output support

4K/QFHD resolution signals can now be output from the SDI OUT connectors when the system frequency is set to 29.97, 25, 24, or 23.98.

Audio function improvements

- A wireless microphone can be used by inserting a portable wireless tuner in the wireless receiver insertion slot of an XDCA-FX9 (option) attached to the camcorder. The following two models of portable wireless tuners are supported.
 - URX-S03D UHF Synthesized Diversity Tuner
 - DWR-S02DN Digital Wireless Receiver
- The digital interface of an XLR-K3M XLR Adaptor Kit attached to the multi-interface shoe of the camcorder is supported.

USB tethering support

A smartphone can now be connected via a USB cable to an XDCA-FX9 (option) attached to the camcorder, allowing the camcorder to connect to the internet using the smartphone.

Iris T value support

The iris indicator now displays T values when a lens that supports T value display is attached.

Password security enhancements

Passwords used for basic authentication now must be 8 characters or longer and contain at least one alphabetic character and one numeric character, respectively, for enhanced security.

Image quality improvements in S35 2K imager scan mode

The image quality has been improved for when Rec Format >Imager Scan Mode in the Project menu is set to S35 2K.

Fonctions principales mises à niveau dans la version 4.0

Améliorations de l'intégration de C3 Portal

- La gestion des fichiers 3D LUT par un service Cloud est prise en charge. Vous pouvez désormais importer dans la caméra un fichier 3D LUT généré par une application depuis le service Cloud. Ceci vous permet de gérer vos fichiers 3D LUT préférés en utilisant le service Cloud.
- La gestion des fichiers ALL par un service Cloud est prise en charge. Vous pouvez sauvegarder un fichier ALL de la caméra sur le service Cloud et charger le fichier depuis le service Cloud dans la caméra. Ceci vous permet de gérer plusieurs fichiers ALL différents en utilisant le service Cloud.
- Le téléchargement automatique d'un fichier original est pris en charge. Auparavant, il fallait prévoir du temps pour créer des copies de sauvegarde, car celles-ci devaient généralement être effectuées collectivement une fois la prise de vue terminée, mais la fonction de transfert automatique des fichiers originaux permet de faire des copies de sauvegarde des fichiers originaux sur le service Cloud après la prise de vue de chaque plan.

Améliorations du workflow de la prise de vue

Les données LUT (données Cube) peuvent désormais être enregistrées en tant que métadonnées. Lors de l'enregistrement sur un support d'enregistrement, les données LUT (données Cube) appliquées à l'image du moniteur lors de la prise de vue peuvent désormais

être sauvegardées en même temps. Ceci vous permet de gagner du temps dans la gestion de la liaison des données LUT dans le processus de post-traitement.

Prise en charge de la commutation des indicateurs CH1/CH2 et CH3/CH4 du vumètre audio

Le vumètre audio affiché à l'écran peut désormais être commuté entre l'indicateur CH1/CH2 et l'indicateur CH3/CH4 en utilisant Audio Output > Monitor CH dans le menu Audio.

Prise en charge des touches personnalisables pour changer le canal du moniteur audio

Le réglage du canal du moniteur audio peut désormais être attribué à des touches personnalisables. Vous pouvez sélectionner n'importe quel canal du moniteur audio en attribuant Audio Monitor CH et Audio Mon. CH Switch.

Prise en charge de l'indication LED des touches personnalisables

La LED intégrée à chaque touche personnalisable peut désormais indiquer lorsque la fonction attribuée à la touche personnalisable devient active ou dans d'autres cas. Pour plus de détails sur l'indication LED, consultez le mode d'emploi.

Modifications du contrôle de l'enregistrement proxy lors de la commutation des réglages Slow & Quick Motion

Lorsque Proxy Rec est sur On et S&Q Motion est réglé sur On, Proxy Rec est temporairement réglé sur Off. Lorsque S&Q Motion est réglé sur Off, Proxy Rec est à nouveau réglé sur On.

Fonctions principales mises à niveau dans la version 3.0

Ajout d'options de sélection du mode Imager Scan

- Une option S16 2K a été ajoutée à Rec Format > Imager Scan Mode dans le menu Project. S16 2K peut être sélectionné lorsque le format vidéo est 1920×1080P et 1920×1080i. Les fréquences d'images de 1 à 60, 100, 120, 150 et 180 fps peuvent être sélectionnées pour la prise de vue en ralenti et accéléré.

[Remarque]

Avant la prise de vue en S16 2K à des fréquences d'images supérieures à 150 fps pour la première fois, exécutez Auto Black Balance dans le menu Shooting.

- LA-EB1 (en option) est pris en charge. Un objectif B4 peut être utilisé lorsqu'un LA-EB1 est fixé et Imager Scan Mode est réglé sur S16 2K.

[Remarque]

Pour utiliser un LA-EB1 (en option), fixez un XDCA-FX9 (en option) à l'appareil et connectez le câble CC fourni entre le connecteur DC OUT (arrondi, 4 broches) et le connecteur DC IN.

- L'angle de vue de la prise de vue peut être modifié rapidement à l'aide d'une touche personnalisable attribuée avec la fonction Crop Select.

Prise en charge du protocole S700 via Ethernet

Les opérations de prise de vue peuvent être contrôlées à partir d'un panneau de télécommande en fixant un XDCA-FX9 (en option) à l'appareil et en connectant un câble LAN entre le connecteur LAN filaire et le panneau de télécommande.

Les panneaux de télécommande suivants sont pris en charge.

- RCP-1500/1501/1530
- RCP-3100
- RCP-3500/3501

Améliorations de la fonction de mise au point automatique

- L'AF de suivi en temps réel d'un sujet spécifié est pris en charge. L'AF de suivi en temps réel peut être utilisé pendant la mise au point manuelle, outre la mise au point automatique.
- Pendant la mise au point manuelle, la mise au point sur un point, sur laquelle un sujet dans une position est spécifié par une opération tactile, est prise en charge. Lorsque Focus > Touch Function in MF dans le menu Shooting est réglé sur Spot Focus, cette méthode peut être utilisée.
- Pendant la mise au point manuelle, un marqueur de mise au point indiquant le mouvement par rapport à la position de mise au point de référence est pris en charge.

Améliorations de la fonction d'écrans d'état

- Les écrans d'état individuels peuvent être sélectionnés pour être affichés. Vous pouvez afficher/masquer l'écran d'état à l'aide de Status Page On/Off dans le menu Technical.

- Des éléments de sélection des réglages ont été ajoutés aux écrans d'état. Les éléments suivants ont été ajoutés.
 - Écran Main Status : S&Q Frame Rate
 - Écran Camera Status : Zebra1, Zebra2
 - Écran Project Status : Rec Function, Picture Cache Rec >Cache Rec Time, Proxy Rec >Proxy Format
- Les options prédéfinies de sélection de LUT et de LUT utilisateur pour Monitor LUT sont affichées ensemble sur l'écran Main Status et l'écran Monitoring Status.

Prise en charge du nommage de fichiers au format identifiant de caméra + numéro de bobine

L'option Cam ID + Reel# a été ajoutée à Clip Name Format >Auto Naming dans le menu TC/Media.

La spécification de Camera ID, Reel Number et Camera Position vous permet de créer des noms de fichiers uniques et faciles à gérer.

Prise en charge de l'affichage de décompression dans le viseur

De-Squeeze peut être configuré à l'aide de VF Setting dans le menu Monitoring.

L'image de décompression peut être visualisée dans le viseur lorsqu'un objectif anamorphoseur 2.0× ou 1.3× est fixé.

Prise en charge de l'affichage SDR simple du viseur lors de la prise de vue en HDR

L'affichage SDR simple permet la prise de vue en HDR avec la même sensation concernant le réglage d'exposition que lors de la prise de vue en SDR.

— Lorsque Base Setting >Shooting Mode est réglé sur HDR et que HDR Setting >VF SDR Preview est réglé sur On dans le menu Project, le réglage SDR Gain est appliqué à l'image du viseur.

— La luminosité de l'image HDR capturée peut être contrôlée en modifiant le réglage HDR Setting >SDR Gain.

Extension des informations de métadonnées des fichiers proxy

Les informations de format de l'image principale sont aussi enregistrées en tant qu'informations de métadonnées du fichier proxy.

Prise en charge de l'enregistrement et du transfert de fichiers de fragment de fichiers proxy

Un fichier proxy enregistré simultanément peut être enregistré par fragments d'une durée définie et les fichiers proxy fragmentés peuvent être transférés dans l'ordre pendant que l'enregistrement est encore en cours.

Connexion simple à C3 Portal à l'aide de C3 Portal App

Les fichiers peuvent être transférés facilement sur le service Cloud C3 Portal en reliant l'appareil à l'application pour smartphone « C3 Portal App ».

Améliorations du nom d'utilisateur/mot de passe pour la fonction réseau

Les options de génération automatique (Generate Password) et de réglage de l'affichage (Show Settings) ont été ajoutées à Access Authentication dans le menu Network.

[Remarque]

La mise à jour de l'appareil supprimera le mot de passe configuré.

Fonctions principales mises à niveau dans la version 2.1

Prise en charge de la sortie RAW 3840×2160

La prise en charge de 3840×2160 a été ajoutée au RAW Output Format pour la fonction de sortie RAW qui est activée lorsqu'un XDCA-FX9 (option) est fixé au caméscope.

Ceci peut être sélectionné lorsque Imager Scan Mode par imageur est réglé sur S35 4K et que Codec est réglé sur RAW. De plus, lorsque RAW Output Format est réglé sur 3840×2160, Slow & Quick Motion peuvent être activées avec une fréquence d'images réglée sur 100P ou 120P.

Amélioration de l'ajustement de White Balance

Le réglage de White Balance à la lumière du soleil a été facilité, et peut également être ajusté à une couleur plus naturelle.

Fonctions principales mises à niveau dans la version 2.0

Ajout d'options de sélection du format d'enregistrement

- Une option FFcrop 5K a été ajoutée à Rec Format >Imager Scan Mode dans le menu Project.
- Lorsque Imager Scan Mode est réglé sur FF 6K, FFcrop 5K ou S35 4K, Video Format peut désormais être réglé sur 4096×2160.
- Une option « 24 » a été ajoutée à Rec Format >Frequency dans le menu Project.

[Remarque]

Le réglage du Video Format 4096×2160 est pris en charge uniquement lorsque Imager Scan Mode est réglé sur FF 6K, FFcrop 5K ou S35 4K.

Prise en charge du User 3D LUT

Un fichier CUBE (*.cube) pour un 3D LUT à 17 points ou 33 points créé avec RAW Viewer ou DaVinci Resolve (de Blackmagic Design Pty. Ltd.) peut désormais être chargé.

Prise en charge de la sortie RAW

Le signal vidéo RAW peut être émis du connecteur RAW OUT d'un XDCA-FX9 (en option) attaché au caméscope.

Prise en charge de High Dynamic Range (HDR)

Hybrid Log Gamma (HLG) est pris en charge afin de permettre la prise de vue avec gamme dynamique étendue.

Les deux types de HLG suivants sont disponibles.

- Natural : caractéristique conforme à ITU-R BT.2100(HLG).
- Live : caractéristique conforme à ITU-R BT.2100(HLG) qui délivre des performances HDR améliorées.

Lorsque HDR est sélectionné, l'espace de couleur est étendu à une équivalence ITU-R BT.2020.

Ajout d'options de fréquence d'images pour le ralenti et accéléré

Les options 150fps et 180fps ont été ajoutées pour la fréquence d'images lorsque Rec Format >Imager Scan Mode dans le menu Project est réglé sur FF 2K.

Extension de la gamme ISO/Gain configurable

La plage configurable pour ISO et Gain lorsque Base Setting >Shooting Mode dans le menu Project est réglé sur SDR ou HDR a été étendue.

- Lorsque le mode de réglage du gain est réglé sur ISO, il est possible de configurer des valeurs allant jusqu'à ISO 102400 maximum.
- Lorsque le mode de réglage du gain est réglé sur dB, il est possible de configurer des valeurs allant jusqu'à 27 dB.

Améliorations de la fonction AF

- La mise au point est désormais prise en charge non seulement pour la détection des visages, mais aussi pour la détection des yeux des personnes.
- Lorsque Focus Area est réglé sur Flexible Spot ou Zone, le cadre de la zone de mise au point peut désormais être déplacé à l'aide d'une opération tactile.
- La vitesse de transition AF et la sensibilité de changement de sujet AF peuvent désormais être attribuées aux touches personnalisables.
- En mode Cine EI, les performances de la mise au point automatique de la détection des visages/yeux ont été améliorées lorsque Gamma est réglé sur S-Log3.

Prise en charge pour la modification des réglages à partir de l'écran d'état

Certains réglages peuvent être modifiés à partir de l'écran d'état. Les éléments peuvent être sélectionnés à l'aide de la molette multifonction, du sélecteur multiple ou par une opération tactile.

Prise en charge de la sortie 6G SDI

Les signaux de résolution 4K/QFHD peuvent désormais être émis des connecteurs SDI OUT lorsque la fréquence du système est réglée sur 29.97, 25, 24 ou 23.98.

Améliorations de la fonction audio

- Un microphone sans fil peut être utilisé en insérant un tuner sans fil portable dans le logement d'insertion du récepteur sans fil d'un XDCA-FX9 (en option) attaché au caméscope. Les deux modèles de tuners sans fil portatifs suivants sont pris en charge.
 - Tuner de diversité synthétisé UHF URX-S03D
 - Récepteur sans fil numérique DWR-S02DN
- L'interface numérique d'un kit adaptateur XLR XLR-K3M attaché à la griffe multi-interface du caméscope est prise en charge.

Prise en charge du raccordement modem USB

Un smartphone peut désormais être connecté via un câble USB à un XDCA-FX9 (en option) attaché au caméscope, permettant de connecter le caméscope à Internet via un smartphone.

Prise en charge de la valeur Iris T

L'indicateur de diaphragme affiche désormais les valeurs T lorsqu'un objectif prenant en charge l'affichage de la valeur T est attaché.

Renforcement de la sécurité des mots de passe

Les mots de passe utilisés pour l'authentification de base doivent désormais comporter 8 caractères ou plus et contenir au moins un caractère alphabétique et un caractère numérique, respectivement, pour une sécurité renforcée.

Améliorations de la qualité d'image en mode Imager Scan S35 2K

La qualité d'image a été améliorée lorsque Rec Format >Imager Scan Mode dans le menu Project est réglé sur S35 2K.

Die wichtigsten in Version 4.0 aktualisierten Funktionen

Verbesserungen bei der Integration von C3 Portal

- Verwaltung von 3D-LUT-Dateien mittels Cloud-Diensten wird unterstützt. Sie können jetzt von einer Anwendung generierte 3D-LUT-Dateien aus dem Cloud-Dienst in die Kamera importieren. Auf diese Weise können Sie Ihre bevorzugten 3D-LUT-Dateien über den Cloud-Dienst verwalten.
- Die Verwaltung von ALL-Dateien mittels Cloud-Diensten wird unterstützt. Sie können eine ALL-Datei von Kameras auf dem Cloud-Dienst speichern und vom Cloud-Dienst in eine Kamera laden. Auf diese Weise können Sie mithilfe des Cloud-Diensts eine Reihe verschiedener ALL-Dateien verwalten.
- Das automatische Hochladen von Originaldateien wird unterstützt. Bisher musste für die Erstellung von Sicherungskopien Zeit reserviert werden, da diese nach Abschluss der Dreharbeiten meist für alle Dateien erstellt werden mussten. Die Funktion für die automatische Übertragung der Originaldateien ermöglicht jetzt die Sicherung der Originaldateien auf dem Cloud-Service jeweils im Anschluss an die Aufnahme der Clips.

Verbesserungen des Aufnahme-Workflows

LUT-Daten (Cube-Daten) können jetzt als Metadaten aufgezeichnet werden. Bei Aufzeichnungen auf Speichermedien können Sie die bei der Aufnahme auf das Monitorbild angewendeten LUT-Daten (Cube-Daten) gleichzeitig als Clip-

Metadaten speichern. Dadurch sparen Sie im Nachbearbeitungsprozess Zeit bei der Verwaltung der LUT-Datenverknüpfungen.

Unterstützung für Umschaltung der Audiopegelanzeige CH1/CH2 und CH3/CH4

Der von der Audiopegelanzeige auf dem Bildschirm angezeigte Audiopegel kann jetzt mit Audio Output > Monitor CH im Audio-Menü zwischen CH1/CH2 und CH3/CH4 umgeschaltet werden.

Unterstützung für belegbare Taste zum Umschalten des Audiomonitorkanals

Die Einstellung des Audiomonitorkanals kann jetzt einer belegbaren Taste zugewiesen werden. Durch Zuweisen von Audio Monitor CH und Audio Mon. CH Switch können Sie jeden beliebigen Audiomonitorkanal auswählen.

Unterstützung für Anzeige zuweisbarer Tasten durch LED

Die in allen belegbaren Tasten integrierte LED kann jetzt anzeigen, wenn die der belegbaren Taste zugewiesene Funktion aktiviert wird (oder in anderen Fällen). Einzelheiten zur Anzeige durch die LED finden Sie in der Bedienungsanleitung.

Änderungen an der Steuerung von Proxy-Aufzeichnungen beim Ändern der Einstellungen für Zeitlupe und Zeitraffer

Wenn „Proxy Rec“ auf „On“ steht und „S&Q Motion“ auf „On“ gesetzt wird, wird „Proxy Rec“ vorübergehend auf „Off“ gesetzt. Wenn „S&Q Motion“ auf „Off“ gesetzt wird, wird „Proxy Rec“ wieder auf „On“ gesetzt.

Die wichtigsten in Version 3.0 aktualisierten Funktionen

Auswahlmöglichkeiten für den Imager-Scanmodus hinzugefügt

- Im Project-Menü wurde unter „Rec Format“ > „Imager Scan Mode“ die Option „S16 2K“ hinzugefügt. S16 2K kann ausgewählt werden, wenn das Videoformat 1920×1080P oder 1920×1080i lautet. Für Zeitlupen- und Zeitrafferaufnahmen können die Bildraten 1 bis 60, 100, 120, 150 und 180 fps ausgewählt werden.

[Hinweis]

Führen Sie „Auto Black Balance“ im Shooting-Menü aus, bevor Sie erstmals in S16 2K mit Bildraten oberhalb von 150 fps aufnehmen.

- LA-EB1 (optional) wird unterstützt. Ein B4-Objektiv kann verwendet werden, wenn ein LA-EB1 angebracht ist und „Imager Scan Mode“ auf „S16 2K“ eingestellt ist.

[Hinweis]

Um ein LA-EB1 (optional) zu verwenden, bringen Sie ein XDCA-FX9 (optional) am Gerät an und verbinden Sie die Anschlüsse DC OUT (rund, 4-polig) und DC IN mit dem mitgelieferten DC-Kabel.

- Der Aufnahmebetrachtungswinkel kann mithilfe einer belegbaren Taste schnell geändert werden, der die Funktion „Crop Select“ zugewiesen wurde.

S700-Protokoll wird über Ethernet unterstützt

Aufnahmeprozesse können Sie von einem Fernbedienfeld aus steuern, indem Sie ein XDCA-FX9 (optional) am Gerät anbringen und das Fernbedienfeld über ein LAN-Kabel mit dem Anschluss für verkabeltes LAN verbinden. Die folgenden Fernbedienfelder werden unterstützt.

— RCP-1500/1501/1530

— RCP-3100

— RCP-3500/3501

Verbesserungen der Autofokus-Funktion

- Echtzeitverfolgungs-AF eines angegebenen Motivs wird unterstützt. Echtzeitverfolgungs-AF kann außer während AF auch während MF verwendet werden.
- Während der manuellen Fokussierung wird Spot-Fokussierung auf Motive an per Touch-Bedienung angegebenen Positionen unterstützt. Wenn „Focus“ > „Touch Function in MF“ im Shooting-Menü auf „Spot Focus“ eingestellt ist, kann diese Methode verwendet werden.
- Während der manuellen Fokussierung wird eine Fokussierung unterstützt, welche die Abweichung von der Referenzfokusposition anzeigt.

Verbesserungen der Statusbildschirmfunktion

- Die einzelnen Statusbildschirme können zur Anzeige ausgewählt werden. Sie können mithilfe von „Status Page On/Off“ im Technical-Menü den Statusbildschirm ein-/ausblenden.
- Den Statusbildschirmen wurden Elemente zur Auswahl von Einstellungen hinzugefügt. Die folgenden Elemente wurden hinzugefügt.
 - Bildschirm „Main Status“: S&Q Frame Rate
 - Bildschirm „Camera Status“: Zebra1, Zebra2
 - Statusbildschirm „Project“: Rec Function, Picture Cache Rec > Cache Rec Time, Proxy Rec > Proxy Format
- Die voreingestellten LUT- und Benutzer-LUT-Auswahloptionen für „Monitor LUT“ werden zusammen auf den Bildschirmen „Main Status“ und „Monitoring Status“ angezeigt.

Die Dateibenennung im Format „Camera ID + Reel#“ wird unterstützt

Unter „Clip Name Format“ > „Auto Naming“ im TC/Media-Menü wurde die Option „Cam ID + Reel#“ hinzugefügt.

Indem Sie „Camera ID“, „Reel Number“ und „Camera Position“ angeben, können Sie eindeutige, leicht zu verwaltende Dateinamen erstellen.

Entstauchungsanzeige im Sucher wird unterstützt

Die Entstauchung kann mithilfe von „VF Setting“ im Monitoring-Menü konfiguriert werden.

Das entstauchte Bild kann im Sucher betrachtet werden, wenn ein anamorphotisches 2.0x- oder 1.3x-Objektiv angebracht ist.

Einfache SDR-Sucheranzeige wird unterstützt, wenn in HDR aufgenommen wird

Mithilfe der einfachen SDR-Anzeige können Sie in HDR aufnehmen und dabei mit dem gleichen Belichtungsempfinden wie unter SDR arbeiten.

- Wenn im Project-Menü die Optionen „Base Setting“ > „Shooting Mode“ auf „HDR“ und „HDR Setting“ > „VF SDR Preview“ auf „On“ eingestellt sind wird die Einstellung „SDR Gain“ auf das Sucherbild angewendet.
- Die Helligkeit des erfassten HDR-Bilds kann durch Ändern der Einstellung „HDR Setting“ > „SDR Gain“ gesteuert werden.

Erweiterte Metadateninformationen für Proxy-Dateien

Die Formatinformationen des Hauptbilds werden zusätzlich als Metadaten für die Proxy-Datei aufgezeichnet.

Aufzeichnung und blockweise Dateiübertragung von Proxy-Dateien wird unterstützt

Eine gleichzeitig aufgenommene Proxy-Datei kann in Blöcken einer festgelegten Dauer aufgezeichnet werden und die Proxy-Dateiblocke können nacheinander übertragen werden, während der Aufnahmeprozess noch vorstattgeht.

Einfache C3 Portal-Verbindung mithilfe der C3 Portal App

Dateien können bequem an den „C3 Portal“-Cloud-Dienst übertragen werden, indem das Gerät mit der Smartphone-Anwendung „C3 Portal App“ verknüpft wird.

Verbesserungen hinsichtlich Benutzername/Passwort für die Netzwerkfunktion

Es wurden im Network-Menü unter „Access Authentication“ Optionen zum automatischen Erzeugen von Passwörtern („Generate Password“) und für die Anzeige der Einstellungen („Show Settings“) hinzugefügt.

[Hinweis]

Beim Aktualisieren des Geräts wird das konfigurierte Passwort gelöscht.

Die wichtigsten in Version 2.1 aktualisierten Funktionen

Unterstützung für RAW-Ausgabe mit 3840×2160

Für die Funktion zur RAW-Ausgabe, die aktiviert ist, wenn ein XDCA-FX9 (optional) am Camcorder angebracht ist, wurde unter „RAW Output Format“ die Unterstützung für 3840×2160 hinzugefügt.

Diese Auswahl ist möglich, wenn „Imager Scan Mode“ auf „S35 4K“ und „Codec“ auf „RAW“ gesetzt sind. Außerdem kann bei Einstellung von „RAW Output Format“ auf „3840×2160“ die Funktion „Slow & Quick Motion“ mit den Bildrateneinstellungen „100P“ oder „120P“ aktiviert werden.

Verbesserung der Einstellung von „White Balance“

Die Einstellung von „White Balance“ im Sonnenlicht wurde erleichtert und kann auf eine natürlichere Farbe abgestimmt werden.

Die wichtigsten in Version 2.0 aktualisierten Funktionen

Neue Auswahloptionen für das Aufzeichnungsformat

- Im Menü „Project“ wurde unter „Rec Format“ > „Imager Scan Mode“ die Option „FFcrop 5K“ hinzugefügt.
- Wenn „Imager Scan Mode“ auf „FF 6K“, „FFcrop 5K“ oder „S35 4K“ eingestellt ist, kann „Video Format“ jetzt auf 4096×2160 eingestellt werden.

- Im Menü „Project“ wurde unter „Rec Format“ > „Frequency“ die Option „24“ hinzugefügt.

[Hinweis]

Die Video Format-Einstellung 4096×2160 wird nur unterstützt, wenn „Imager Scan Mode“ auf „FF 6K“, „FFcrop 5K“ oder „S35 4K“ eingestellt ist.

Unterstützung für User 3D LUT

Mit RAW Viewer oder DaVinci Resolve (von Blackmagic Design Pty. Ltd.) erstellte CUBE-Dateien (*.cube) können jetzt für 17-Punkt- oder 33-Punkt-3D-LUTs geladen werden.

Unterstützung für RAW-Ausgabe

Über den Anschluss RAW OUT eines an den Camcorder angeschlossenen XDCA-FX9 (Option) kann das RAW-Videosignal ausgegeben werden.

Unterstützung für High Dynamic Range (HDR)

Um Aufnahmen mit erweitertem Dynamikbereich zu ermöglichen, wird Hybrid Log Gamma (HLG) unterstützt.

Die beiden folgenden HLG-Typen sind verfügbar.

— Natural: Charakteristik gemäß ITU-R BT.2100(HLG).

— Live: Charakteristik gemäß ITU-R BT.2100(HLG), die eine verbesserte HDR-Darstellung bietet.

Wenn HDR ausgewählt ist, wird der Farbraum so erweitert, dass er äquivalent zu ITU-R BT.2020 ist.

Neue Bildraten für Zeitlupe und Zeitraffer

Wenn im Menü „Project“ die Option „Rec Format“ > „Imager Scan Mode“ auf „FF 2K“ eingestellt ist, stehen die Bildraten 150fps und 180fps zur Verfügung.

Erweiterung des konfigurierbaren ISO/Gain-Bereichs

Wenn im Menü „Project“ für „Base Setting“ > „Shooting Mode“ die Option „SDR“ oder „HDR“ ausgewählt wird, steht ein erweiterter konfigurierbarer Bereich für ISO und Gain zur Verfügung.

- Wenn als Modus für die Verstärkungseinstellung ISO eingestellt ist, können Werte bis maximal 102400 konfiguriert werden.
- Wenn als Modus für die Verstärkungseinstellung dB eingestellt ist, können Werte bis maximal 27 dB konfiguriert werden.

Verbesserungen der AF-Funktion

- Die Fokussierung wird jetzt nicht nur zur Gesichtserkennung, sondern auch unter Verwendung der Erkennung der Augen von Personen unterstützt.
- Wenn „Focus Area“ auf „Flexible Spot“ oder „Zone“ eingestellt ist, kann der Rahmen des Fokusbereichs jetzt mittels Berührung verschoben werden.
- Die AF-Übergangsgeschwindigkeit und die AF-Motivwechselempfindlichkeit können jetzt belegbaren Funktionstasten zugewiesen werden.
- Im Modus Cine EI wurde die Erkennungsleistung der AF-Gesichts-/Augenerkennung bei Einstellung von Gamma auf S-Log3 verbessert.

Unterstützung für das Ändern von Einstellungen über den Statusbildschirm

Einige Einstellungen können über den Statusbildschirm geändert werden. Optionen können per Mehrfunktionsregler, Wahlschalter oder mittels Berührung ausgewählt werden.

Unterstützung für 6G SDI-Ausgabe

Wenn die Systemfrequenz auf 29.97, 25, 24 oder 23.98 eingestellt ist, können Signale in 4K/QFHD-Auflösung jetzt an den SDI OUT-Anschlüssen ausgegeben werden.

Verbesserungen der Audiofunktion

- Funkmikrofone können verwendet werden, indem ein tragbarer drahtloser Tuner in den Steckplatz für den drahtlosen Empfänger eines an den Camcorder angeschlossenen XDCA-FX9 (Option) eingesetzt wird. Die folgenden zwei Modelle tragbarer drahtloser Tuner werden unterstützt.
 - UHF Synthesized Diversity Tuner URX-S03D
 - Digital Wireless Receiver DWR-S02DN
- Die digitale Schnittstelle eines am Multi-Interface-Schuh des Camcorders angeschlossenen XLR-Adapter-Kits XLR-K3M wird unterstützt.

Unterstützung für USB-Tethering

Ein Smartphone kann jetzt über ein USB-Kabel mit einem am Camcorder angeschlossenen XDCA-FX9 (Option) verbunden werden, wodurch der Camcorder über das Smartphone eine Verbindung zum Internet herstellen kann.

Unterstützung für T-Blendenwerte

Die Irisanzeige zeigt jetzt T-Werte an, wenn ein Objektiv angebracht ist, das die T-Wert-Anzeige unterstützt.

Verbesserte Kennwortsicherheit

Für die Basisauthentifizierung verwendete Kennwörter müssen jetzt mindestens 8 Zeichen lang sein und zur Erhöhung der Sicherheit mindestens einen Buchstaben sowie mindestens eine Ziffer enthalten.

Verbesserung der Bildqualität im Imager-Scanmodus S35 2K

Die Bildqualität wurde für Einstellungen verbessert, bei denen „Rec Format“ > „Imager Scan Mode“ im Menü „Project“ auf „S35 2K“ eingestellt ist.

Funzioni principali aggiornate nella versione 4.0

Miglioramenti all'integrazione con C3 Portal

- È supportata la gestione dei file 3D LUT su servizio cloud.
È ora possibile importare sul camcorder un file 3D LUT generato da un'applicazione e salvato sul servizio cloud. Questo consente la gestione dei file 3D LUT preferiti utilizzando il servizio cloud.
- È supportata la gestione dei file ALL su servizio cloud.
È ora possibile sia salvare un file ALL del camcorder sul servizio cloud sia caricare sul camcorder un file ALL dal servizio cloud. Questo consente la gestione di file ALL diversi utilizzando il servizio cloud.
- È supportato l'upload automatico di file originali.
In precedenza era necessario dedicare un tempo specifico per la creazione di backup in quanto i backup dovevano generalmente essere eseguiti tutti insieme dopo il completamento delle riprese. La funzione di trasferimento automatico dei file originali consente adesso di eseguire il backup dei file originali sul servizio cloud dopo aver ripreso ciascun clip.

Miglioramenti del flusso di lavoro delle riprese

È possibile ora registrare anche dati LUT (dati Cube) come metadati.
È ora possibile salvare contemporaneamente, durante la registrazione sul supporto di registrazione, anche i dati LUT (dati Cube) applicati all'immagine di monitoraggio durante la ripresa possono ora essere salvati contemporaneamente. Questo consente

di risparmiare tempo nella gestione del collegamento dei dati LUT durante le procedure di post-processing.

Supporto per la commutazione degli indicatori di livello audio CH1/CH2 e CH3/CH4

È ora possibile scegliere se visualizzare sullo schermo l'indicatore di livello audio CH1/CH2 o l'indicatore di livello audio CH3/CH4 mediante la voce Audio Output > Monitor CH del menu Audio.

Supporto per l'assegnazione di un pulsante programmabile alla commutazione del canale di monitoraggio audio

È ora possibile assegnare l'impostazione del canale di monitoraggio audio a un pulsante programmabile. È possibile selezionare qualsiasi canale di monitoraggio audio configurando opportunamente Audio Monitor CH e Audio Mon. CH Switch.

Supporto per l'indicatore LED del pulsante programmabile

Il LED incorporato in ciascun pulsante programmabile può ora indicare quando la funzione assegnata al pulsante programmabile diventa attiva o in altri casi. Per informazioni dettagliate sul significato dell'indicazione fornita dal LED, fare riferimento alle istruzioni per l'uso.

Modifiche all'impostazione della registrazione proxy quando si cambiano le impostazioni di Slow & Quick Motion

Quando Proxy Rec è On e S&Q Motion è impostata su On, Proxy Rec viene temporaneamente impostata su Off. Non appena S&Q Motion viene impostata su Off, Proxy Rec viene nuovamente impostata su On.

Funzioni principali aggiornate nella versione 3.0

Sono state aggiunte opzioni alla selezione della modalità di scansione dell'imager

- È stata aggiunta l'opzione S16 2K a Rec Format > Imager Scan Mode nel menu Project. L'opzione S16 2K può essere selezionata quando il formato video è 1920×1080P o 1920×1080i. La frequenza fotogrammi nella ripresa in Slow & Quick Motion può ora essere impostata su valori da 1 a 60, 100, 120, 150 e 180 fps.
- Adattatore LA-EB1 (opzionale) supportato. È ora possibile utilizzare ottiche B4 montando un adattatore LA-EB1 e impostando Imager Scan Mode su S16 2K.

[Nota]

Prima di eseguire riprese per la prima volta in modalità S16 2K a frequenze fotogrammi superiori a 150 fps, eseguire la funzione Auto Black Balance nel menu Shooting.

[Nota]

Per utilizzare un adattatore LA-EB1 (opzionale), montare un'unità di estensione XDCA-FX9 (opzionale) sull'unità e collegare il connettore DC OUT (rotondo, 4 pin) al connettore DC IN usando il cavetto c.c. fornito.

- L'angolo di visuale di ripresa può essere modificato rapidamente utilizzando un pulsante programmabile a cui è stata assegnata la funzione Crop Select.

Il protocollo S700 è supportato tramite Ethernet

Le operazioni di ripresa possono essere comandate mediante un pannello di comando a distanza montando un'unità XDCA-FX9 (opzionale) sull'unità e collegando il pannello di comando a distanza al connettore della LAN cablata tramite un cavo LAN.

Sono supportati i seguenti pannelli comando a distanza:

- RCP-1500/1501/1530
- RCP-3100
- RCP-3500/3501

Miglioramenti della funzione di messa a fuoco automatica

- È supportata la messa a fuoco automatica con seguimiento in tempo reale di un soggetto specificato.
La messa a fuoco automatica con seguimiento in tempo reale può essere utilizzata sia durante la messa a fuoco manuale che durante la messa a fuoco automatica.
- Durante la messa a fuoco manuale, è supportata la messa a fuoco spot che consente di mettere a fuoco il soggetto desiderato semplicemente toccandolo sul touchscreen.
Questo metodo può essere utilizzato se Focus > Touch Function in MF nel menu Shooting viene impostato su Spot Focus.
- Durante la messa a fuoco manuale è ora disponibile un indicatore di messa a fuoco che indica lo scostamento dalla posizione di messa a fuoco di riferimento.

Miglioramenti della funzione della schermata di stato

- È ora possibile selezionare individualmente le schermate di stato visualizzabili. È possibile mostrare o nascondere le varie schermate di stato mediante la voce Status Page On/Off nel menu Technical.
- Sono state aggiunte alle schermate di stato varie voci selezionabili. Sono state aggiunte le voci elencate di seguito.
 - Schermata Main Status: S&Q Frame Rate
 - Schermata Camera Status: Zebra1, Zebra2
 - Schermata di stato Project: Rec Function, Picture Cache Rec >Cache Rec Time, Proxy Rec >Proxy Format
- Le opzioni di selezione relative alla LUT preimpostata e alla LUT utente sono visualizzate insieme nella schermata Main Status e nella schermata Monitoring Status.

È ora supportata l'assegnazione di nomi di file nel formato Camera ID + Reel#

È stata aggiunta l'opzione Cam ID + Reel# alla voce Clip Name Format >Auto Naming nel menu TC/Media.

Specificando Camera ID, Reel Number e Camera Position si possono generare nomi di file univoci e facili da gestire.

È supportato il de-squeeze dell'immagine nel mirino

La funzione di de-squeeze può essere configurata mediante la voce VF Setting nel menu Monitoring.

Quando è montata un'ottica anamorfica 2.0× o 1.3× la funzione di de-squeeze consente di visualizzare l'immagine sul mirino.

Nelle riprese in formato HDR è possibile visualizzare una semplice immagine SDR sul mirino

La semplice visualizzazione dell'immagine SDR offre, durante le riprese in HDR, una sensazione per la regolazione dell'esposizione analoga a quella delle riprese in SDR.

- Quando Base Setting >Shooting Mode è impostato su HDR e HDR Setting >VF SDR Preview è impostato su On nel menu Project, viene applicato all'immagine del mirino il valore impostato in SDR Gain.
- La luminosità dell'immagine HDR acquisita può essere controllata modificando l'impostazione HDR Setting >SDR Gain.

Estensione delle informazioni dei metadati ai file proxy

Le informazioni di formato dell'immagine principale sono registrate anche nei metadati per il file proxy.

Supportati registrazione e trasferimento di file proxy in blocchi

Durante la registrazione simultanea di file proxy, tali file proxy possono ora essere registrati in blocchi di una durata specificata che possono essere trasferiti, in sequenza, durante la registrazione stessa.

Semplice connessione a C3 Portal tramite l'app C3 Portal

Collegando l'unità con l'applicazione per smartphone "C3 Portal App" è semplicissimo trasferire file sul servizio cloud C3 Portal.

Miglioramenti relativi a nome utente e password per la funzione di rete

Sono state aggiunte opzioni di generazione automatica (Generate Password) e di visualizzazione delle impostazioni (Show Settings) in Access Authentication nel menu Network.

[Nota]

L'aggiornamento dell'unità eliminerà la password configurata.

Funzioni principali aggiornate nella versione 2.1

Supporto per uscita RAW 3840×2160

È stato aggiunto il supporto per il formato 3840×2160 in RAW Output Format per la funzione di uscita RAW abilitata quando è collegata al camcorder un'unità XDCA-FX9 (opzione).

Questa opzione può essere selezionata quando Imager Scan Mode è impostata su S35 4K e Codec è impostato su RAW. Inoltre, quando RAW Output Format è impostato su 3840×2160, è possibile abilitare Slow & Quick Motion con frequenza di fotogramma impostata su 100P o 120P.

Miglioramento della regolazione del valore di White Balance

È stata resa più facile la regolazione del valore di White Balance in luce solare, consentendone anche la regolazione su un colore più naturale.

Funzioni principali aggiornate nella versione 2.0

Aggiunte opzioni di selezione del formato di registrazione

- È stata aggiunta l'opzione FFcrop 5K a Rec Format >Imager Scan Mode nel menu Project.
- Quando Imager Scan Mode è impostata su FF 6K, FFcrop 5K o S35 4K, Video Format può ora essere impostato su 4096×2160.
- È stata aggiunta l'opzione "24" a Rec Format >Frequency nel menu Project.

[Nota]

Video Format può essere impostato su 4096×2160 solo quando Imager Scan Mode è impostata su FF 6K, FFcrop 5K o S35 4K.

Supporto di User 3D LUT

È possibile ora caricare un file CUBE (*.cube) per una 3D LUT a 17 o 33 punti creato con RAW Viewer o DaVinci Resolve (di Blackmagic Design Pty. Ltd.).

Supporto uscita RAW

È ora possibile emettere in uscita un segnale video RAW sul connettore RAW OUT di un'unità XDCA-FX9 (opzionale) montata sul camcorder.

Supporto della modalità High Dynamic Range (HDR)

È ora supportata la modalità Hybrid Log Gamma (HLG) per consentire la ripresa con gamma dinamica estesa.

Sono disponibili due tipi di HLG:

- Natural: Caratteristica conforme a ITU-R BT.2100(HLG).

— Live: Caratteristica conforme a ITU-R BT.2100(HLG) per prestazioni HDR migliorate.

Quando è selezionata la modalità HDR, lo spazio colore viene esteso ad una modalità equivalente a ITU-R BT.2020.

Slow & Quick Motion consente ora la selezione di ulteriori frequenze fotogrammi

Sono ora disponibili i valori di frequenza fotogrammi 150fps e 180fps quando Rec Format >Imager Scan Mode nel menu Project è impostata su FF 2K.

Ampliamento delle impostazioni di ISO e Gain

È stato ampliato il campo di valori di ISO e Gain configurabili quando Base Setting >Shooting Mode nel menu Project è impostata su SDR o HDR.

— Quando la modalità di impostazione del guadagno è impostata su ISO, possono essere configurati valori fino al massimo di ISO 102400.

— Quando la modalità di impostazione del guadagno è impostata su dB, possono essere configurati valori fino a 27dB.

Miglioramenti della funzione AF

- La messa a fuoco è ora supportata non solo nel rilevamento del viso ma anche con il rilevamento degli occhi dei soggetti.
- Quando Focus Area è impostata su Flexible Spot o Zone, il riquadro dell'area di messa a fuoco può ora essere spostato toccando il touchscreen.
- La velocità di transizione AF e la sensibilità al cambiamento del soggetto AF possono ora essere assegnate a pulsanti programmabili.

- In modalità Cine EI, sono state migliorate le prestazioni della messa a fuoco automatica con rilevamento del viso o degli occhi quando Gamma è impostata su S-Log3.

Supporto per la modifica delle impostazioni sulla schermata di stato

Alcune impostazioni possono essere modificate sulla schermata di stato. Le varie voci possono essere selezionate utilizzando la manopola multifunzione, il selettore multiplo o toccando il touchscreen.

Supporto uscita 6G SDI

È ora possibile emettere in uscita sui connettori SDI OUT segnali con risoluzione 4K/QFHD quando la frequenza di sistema è impostata su 29.97, 25, 24 o 23.98.

Miglioramenti della funzione audio

- È possibile utilizzare un microfono wireless inserendo un sintonizzatore wireless portatile nell'apposito slot di un'unità XDCA-FX9 (opzionale) montata sul camcorder. Sono supportati i due modelli di sintonizzatori wireless portatili indicati di seguito:
 - Sintonizzatore sintetizzato Diversity UHF URX-S03D
 - Ricevitore wireless digitale DWR-S02DN
- È supportata l'interfaccia digitale di un Kit adattatore XLR tipo XLR-K3M montato sulla slitta Multi-interface del camcorder.

Supporto per il tethering mediante USB

Collegando uno smartphone con un cavo USB all'unità XDCA-FX9 connessa al camcorder, è ora possibile collegare il camcorder a Internet tramite lo smartphone.

Supporto per i valori T di diaframma

L'indicatore del diaframma visualizza ora i valori T quando è montato un obiettivo che ne supporta la visualizzazione.

Miglioramento della protezione tramite password

Per maggior sicurezza, le password utilizzate per l'autenticazione di base devono ora avere una lunghezza minima di almeno 8 caratteri e contenere almeno un carattere alfabetico e un carattere numerico.

Miglioramenti della qualità dell'immagine nella modalità di scansione imager S35 2K

La qualità dell'immagine è stata migliorata nei casi in cui Rec Format >Imager Scan Mode nel menu Project è impostata su S35 2K.

Principales funciones actualizadas en la versión 4.0

Mejoras en la integración de C3 Portal

- Se admite la gestión de archivos 3D LUT con el servicio en la nube. Ahora puede importar un archivo 3D LUT generado por una aplicación desde el servicio en la nube a la cámara. Esto le permite gestionar sus archivos 3D LUT favoritos con el servicio en la nube.
- Se admite la gestión de archivos ALL con el servicio en la nube. Puede guardar un archivo ALL de la cámara en el servicio en la nube y cargar el archivo desde el servicio en la nube a la cámara. Esto le permite gestionar varios archivos ALL con el servicio en la nube.
- Se admite la carga de un archivo original automáticamente. Antes era necesario bloquear tiempo para crear copias de seguridad, ya que las copias de seguridad normalmente tenían que finalizarse de forma colectiva después de terminar la grabación. Pero la función de transferencia automática de archivos originales permite crear una copia de seguridad de los archivos originales en el servicio en la nube después de grabar cada clip.

Mejoras en el flujo de trabajo de grabación

Los datos LUT (datos Cube) ahora pueden grabarse como metadatos. Al grabar en un soporte de grabación, los datos LUT (datos Cube) aplicados a la imagen del monitor durante la grabación ahora pueden guardarse al mismo tiempo. Esto le permite ahorrar tiempo gestionando la vinculación de los datos LUT en los procesos de postprocesamiento.

Compatibilidad para cambiar el indicador de CH1/CH2 y CH3/CH4 del medidor de nivel de audio

El medidor de nivel de audio mostrado en la pantalla ahora puede cambiarse entre el indicador CH1/CH2 y el indicador CH3/CH4 mediante Audio Output > Monitor CH en el menú Audio.

Compatibilidad del botón asignable para cambiar el canal de monitor de audio

El ajuste del canal de monitor de audio ahora puede asignarse a botones asignables. Puede seleccionar cualquier canal del monitor de audio asignando Audio Monitor CH y Audio Mon. CH Switch.

Compatibilidad de la indicación mediante LED en el botón asignable

El LED integrado en cada botón asignable ahora indica cuando la función asignada a ese botón asignable se activa o en otros casos. Para obtener más información sobre la indicación mediante LED, consulte las instrucciones de uso.

Cambios en el control de grabación proxy al cambiar los ajustes de Slow & Quick Motion

Cuando Proxy Rec está en On y S&Q Motion se establece en On, Proxy Rec se establece en Off temporalmente. Cuando S&Q Motion se establece en Off, Proxy Rec vuelve a establecerse en On.

Principales funciones actualizadas en la versión 3.0

Opciones de selección de modo de escaneado de la cámara añadidas

- Se ha añadido la opción S16 2K en Rec Format > Imager Scan Mode en el menú Project. Se puede seleccionar S16 2K cuando el formato de vídeo es 1920×1080P y 1920×1080i. Para filmaciones en Slow & Quick Motion se pueden seleccionar las velocidades de fotograma 1 a 60, 100, 120, 150 y 180 fps.

[Nota]

Antes de filmar en S16 2K con velocidades de fotograma superiores a los 150 fps por primera vez, ejecute Auto Black Balance en el menú Shooting.

- Admite LA-EB1 (opcional). Se puede utilizar un objetivo B4 si se acopla un LA-EB1 e Imager Scan Mode está ajustado en S16 2K.

[Nota]

Para utilizar un adaptador LA-EB1 (opcional), acople un módulo XDCA-FX9 (opcional) a la unidad y conecte el cable de CC suministrado entre el conector DC OUT (redondo de 4 contactos) y el conector DC IN.

- El ángulo de visión de la filmación se puede cambiar rápidamente mediante un botón asignable asignado con la función Crop Select.

El protocolo S700 es compatible a través de Ethernet

Las operaciones de filmación se pueden controlar mediante un panel de control remoto acoplando un módulo XDCA-FX9 (opcional) a la unidad y conectando un cable LAN entre el conector LAN con cable y el panel de control remoto. Se admiten los siguientes paneles de control remoto.
— RCP-1500/1501/1530
— RCP-3100

— RCP-3500/3501

Mejoras en la función de enfoque automático

- Admite AF de seguimiento en tiempo real de un sujeto específico. AF de seguimiento en tiempo real se puede utilizar durante MF, así como durante AF.
- Durante el enfoque manual, admite el enfoque puntual en la posición donde se especifica un sujeto mediante un toque. Cuando Focus > Touch Function in MF en el menú Shooting está ajustado en Spot Focus, se puede utilizar este método.
- Durante el enfoque manual, admite un marcador de enfoque que indica el movimiento desde la posición de enfoque de referencia.

Mejoras en la función de pantalla de estado

- Las pantallas de estado individuales se pueden seleccionar para su visualización. Puede mostrar/ocultar la pantalla de estado con Status Page On/Off en el menú Technical.
- Se han añadido elementos para seleccionar configuraciones a las pantallas de estado. Se han añadido los siguientes elementos.
— Pantalla Main Status: S&Q Frame Rate
— Pantalla Camera Status: Zebra1, Zebra2
— Pantalla de estado de Project: Rec Function, Picture Cache Rec > Cache Rec Time, Proxy Rec > Proxy Format
- Las opciones de selección LUT predeterminada y LUT del usuario para la función Monitor LUT se muestran juntas en la pantalla Main Status y la pantalla Monitoring Status.

Admite el formato de nombre de archivo Camera ID + Reel#

La opción Cam ID + Reel# se ha añadido a Clip Name Format >Auto Naming en el menú TC/Media.

Especificar el Camera ID, el Reel Number y la Camera Position le permite crear nombres de archivo únicos y fáciles de administrar.

Admite la visualización de descompresión en el visor

De-Squeeze se puede configurar mediante VF Setting en el menú Monitoring.

La imagen descomprimida se puede visualizar en el visor cuando se acopla un objetivo anamórfico de 2.0x o 1.3x.

Admite la visualización del visor SDR simple cuando se filma en HDR

La visualización SDR simple permite filmar en HDR con la misma sensación de ajuste de exposición que cuando se filma en SDR.

— Cuando Base Setting >Shooting Mode está ajustado en HDR y HDR Setting >VF SDR Preview está ajustado en On en el menú Project, el ajuste SDR Gain se aplica a la imagen del visor.

— El brillo de la imagen HDR capturada se puede ajustar cambiando el ajuste HDR Setting >SDR Gain.

Información ampliada de metadatos del archivo proxy

La información de formato de la imagen principal también se registra como información de metadatos para el archivo proxy.

Admite la grabación y la transferencia de archivos por fragmentos de archivos proxy

Un archivo proxy grabado simultáneamente se puede grabar en fragmentos de una duración determinada y los archivos proxy fragmentados se pueden transferir en secuencia mientras la grabación aún está en curso.

Conexión sencilla a C3 Portal mediante C3 Portal App

Los archivos se pueden transferir fácilmente al servicio en la nube de C3 Portal vinculando la unidad con la aplicación para smartphone "C3 Portal App".

Mejoras en el nombre de usuario/contraseña para la función de red

Se han añadido las opciones de generación automática (Generate Password) y el ajuste de pantalla (Show Settings) a Access Authentication en el menú Network.

[Nota]

Al actualizar la unidad se eliminará la contraseña configurada.

Principales funciones actualizadas en la versión 2.1

Compatibilidad con la salida RAW 3840×2160

Se ha añadido compatibilidad con 3840×2160 a RAW Output Format para la función de salida RAW que se habilita cuando un módulo XDCA-FX9 (opcional) se acopla a la videocámara.

Se puede seleccionar cuando la opción Imager Scan Mode está ajustada en S35 4K y la opción Codec está ajustada en RAW. Asimismo, cuando la opción RAW Output Format está ajustada en 3840×2160, Slow & Quick Motion se puede habilitar con la velocidad de fotogramas ajustada en 100P o 120P.

Mejora del ajuste White Balance

Se ha facilitado el ajuste White Balance con luz solar y, además, se puede ajustar a un color más natural.

Principales funciones actualizadas en la versión 2.0

Opciones de selección del formato de grabación añadidas

- Se ha añadido la opción FFcrop 5K a Rec Format >Imager Scan Mode en el menú Project.
- Cuando Imager Scan Mode está ajustado en FF 6K, FFcrop 5K o S35 4K, es posible ajustar Video Format en 4096×2160.
- Se ha añadido la opción "24" a Rec Format >Frequency en el menú Project.

[Nota]

La opción de Video Format de 4096×2160 solo se admite cuando Imager Scan Mode está ajustado en FF 6K, FFcrop 5K o S35 4K.

Compatibilidad con User 3D LUT

Ahora puede cargar un archivo CUBE (*.cube) para una 3D LUT de 17 o 33 puntos creada con RAW Viewer o DaVinci Resolve (de Blackmagic Design Pty. Ltd.).

Compatibilidad con salida RAW

La señal de vídeo RAW se puede emitir desde el conector RAW OUT de un módulo XDCA-FX9 (opcional) acoplado a la videocámara.

Compatibilidad con High Dynamic Range (HDR)

Se admite Hybrid Log Gamma (HLG) para filmar con un rango dinámico ampliado. Están disponibles los dos siguientes tipos de HLG.

- Natural: característica conforme a ITU-R BT.2100(HLG).
- Live: característica conforme a ITU-R BT.2100(HLG) que ofrece un mejor rendimiento de HDR.

Cuando se selecciona HDR, el espacio de color se amplía al equivalente a ITU-R BT.2020.

Opciones de velocidad de fotogramas añadidas para Slow & Quick Motion

Se han añadido las opciones 150fps y 180fps para la velocidad de fotogramas cuando Rec Format >Imager Scan Mode en el menú Project está ajustado en FF 2K.

Ampliación del rango configurable de ISO/Gain

Se ha ampliado el rango configurable de ISO y Gain cuando Base Setting >Shooting Mode en el menú Project está ajustado en SDR o HDR.

- Cuando el modo de ajuste de ganancia está ajustado en ISO, se pueden configurar valores hasta un máximo de ISO 102400.
- Cuando el modo de ajuste de ganancia está ajustado en dB, se pueden configurar valores hasta 27 dB.

Mejoras de la función AF

- Ahora el enfoque se admite no solo para la detección de caras, sino también para la detección de los ojos de las personas.
- Ahora, cuando Focus Area está ajustado en Flexible Spot o en Zone, el marco del área de enfoque se puede mover con el funcionamiento táctil.
- Ahora la velocidad de transición AF y la sensibilidad de desplazamiento del sujeto AF se puede asignar a botones asignables.
- En el modo Cine EI, se ha mejorado el rendimiento del AF de detección de caras/ ojos cuando Gamma está ajustado en S-Log3.

Compatibilidad para cambiar los ajustes en la pantalla de estado

Algunos ajustes se pueden modificar en la pantalla de estado. Puede seleccionar elementos con el dial multifunción, el selector múltiple o una operación táctil.

Compatibilidad con salida 6G SDI

Ahora las señales con resolución 4K/QFHD se pueden emitir desde los conectores SDI OUT cuando la frecuencia del sistema está ajustada en 29.97, 25, 24 o 23.98.

Mejoras de la función Audio

- Puede utilizar un micrófono inalámbrico insertando un sintonizador inalámbrico portátil en la ranura de inserción del receptor inalámbrico de un módulo XDCA-FX9 (opcional) acoplado a la videocámara. Se admiten los dos siguientes modelos de sintonizadores inalámbricos portátiles:
 - Sintonizador de diversidad sintetizado para UHF URX-S03D
 - Receptor inalámbrico digital DWR-S02DN
- Se admite la interfaz digital de un kit adaptador de XLR-K3M XLR acoplado a la zapata de interfaz múltiple de la videocámara.

Compatibilidad con anclaje USB

Ahora puede conectar un smartphone mediante un cable USB a un módulo XDCA-FX9 (opcional) acoplado a la videocámara, para que la videocámara pueda conectarse a Internet a través del smartphone.

Compatibilidad con el valor T del diafragma

Ahora el indicador de diafragma muestra los valores T cuando se acopla un objetivo que admite la visualización de valores T.

Mejoras en la seguridad de la contraseña

Ahora las contraseñas utilizadas para la autenticación básica deben tener 8 caracteres como mínimo y contener al menos un carácter alfabético y otro numérico, respectivamente, para mejorar la seguridad.

Mejoras de la calidad de imagen en el modo de escaneado de la cámara S35 2K

Se ha mejorado la calidad de imagen cuando Rec Format >Imager Scan Mode en el menú Project está ajustado en S35 2K.

Важнейшие функции, обновленные в версии 4.0

Улучшения интеграции со службой C3 Portal

- Поддерживается управление файлами 3D LUT в облачной службе. Теперь возможен импорт файла 3D LUT, генерированного приложением, из облачной службы в камеру. Это позволяет управлять избранными файлами 3D LUT с помощью облачной службы.
- Поддерживается управление файлами ALL в облачной службе. Можно сохранить файл ALL камеры в облачную службу и загрузить его из облачной службы в камеру. Это позволяет управлять несколькими различными файлами ALL с помощью облачной службы.
- Поддерживается автоматическая выгрузка оригинального файла. Ранее требовалось выделять время на создание резервных копий, поскольку обычно по завершении съемки надо было производить совместное резервное копирование, однако функция автоматического переноса оригинальных файлов позволяет выполнять резервное копирование оригинальных файлов в облачную службу после съемки каждого клипа.

Улучшения процесса съемки

Данные LUT (данные Cube) теперь можно записывать в качестве метаданных. При записи на носитель данные LUT (данные Cube), применяемые к изображению на мониторе во время съемки, теперь можно одновременно сохранять. Это позволяет сэкономить время на управление привязыванием данных LUT в процессе последующей обработки.

Поддержка переключения индикаторов уровня звука CH1/CH2 и CH3/CH4

Уровень звука, отображаемый на экране, теперь можно переключать между индикатором CH1/CH2 и индикатором CH3/CH4 с помощью настройки Audio Output >Monitor CH в меню Audio.

Поддержка программируемых кнопок для переключения канала монитора аудио

Теперь можно назначать настройку канала монитора аудио программируемым кнопкам. Путем назначения Audio Monitor CH и Audio Mon. CH Switch можно выбирать любой канал монитора аудио.

Поддержка светодиодной индикации программируемых кнопок

Светодиод, встроенный в каждую из программируемых кнопок, теперь может загораться при активации функции, назначенной программируемой кнопке, или в других случаях. Подробнее о светодиодной индикации см. в Инструкции по эксплуатации.

Изменения в управлении записью файлов прокси при переключении настроек съемки с замедлением/ускорением движения

Если для параметра Proxy Rec задано значение On и для параметра S&Q Motion задано значение On, для параметра Proxy Rec временно устанавливается значение Off. При задании для параметра S&Q Motion значения Off для параметра Proxy Rec снова устанавливается значение On.

Важнейшие функции, обновленные в версии 3.0

Добавленные варианты выбора imager Scan Mode

- К режиму Rec Format >Imager Scan Mode в меню Project добавлен вариант S16 2K. Вариант S16 2K можно выбрать, когда используется формат видео 1920×1080P и 1920×1080i. Для съемки с замедлением/ускорением движения можно выбрать частоту кадров 1–60, 100, 120, 150 и 180 кадров в секунду.

[Примечание]

Перед выполнением съемки в режиме S16 2K при частоте кадров выше 150 кадров в секунду впервые запустите функцию Auto Black Balance из меню Shooting.

- Поддерживается адаптер LA-EB1 (приобретается отдельно). Когда установлен адаптер LA-EB1, а режиму Imager Scan Mode задано значение S16 2K, можно использовать объектив B4.

[Примечание]

Для того чтобы использовать адаптер LA-EB1 (приобретается отдельно), установите на устройство блок расширения XDCA-FX9 (приобретается отдельно) и подсоедините кабель питания постоянного тока из комплекта поставки между разъемом DC OUT (круглый, 4-контактный) и разъемом DC IN.

- Угол обзора при съемке можно быстро изменять с помощью программируемой кнопки, которой назначена функция Crop Select.

Протокол S700 поддерживается через Ethernet

Операциями съемки можно управлять с панели дистанционного управления, установив на устройство блок расширения XDCA-FX9 (приобретается отдельно) и подключив кабель локальной сети к соответствующим разъемам на блоке и панели дистанционного управления. Поддерживаются следующие панели дистанционного управления.

- RCP-1500/1501/1530
- RCP-3100
- RCP-3500/3501

Усовершенствования функции автофокуса

- Поддерживается отслеживание указанного объекта с AF в реальном времени. Отслеживание с AF в реальном времени можно использовать не только в режиме AF, но и в режиме MF.
- В режиме ручного фокуса поддерживается точечная фокусировка на объекте в позиции, которая указывается касанием. Этот способ можно использовать, когда параметру Focus >Touch Function in MF в меню Shooting задано значение Spot Focus.

- В режиме ручной фокусировки поддерживается метка фокуса, которая обозначает смещение от эталонного положения фокуса.

Усовершенствования функции экрана состояния

- Для отображения можно выбирать отдельные экраны состояния. Показать или скрыть каждый экран статуса можно с помощью команды Status Page On/Off в меню Technical.
- На экраны состояния добавлены элементы, предназначенные для выбора настроек. Добавлены следующие элементы.
 - Экран Main Status: S&Q Frame Rate
 - Экран Camera Status: Zebra1, Zebra2
 - Экран Project Status: Rec Function, Picture Cache Rec >Cache Rec Time, Proxy Rec >Proxy Format
- Предварительно заданные значения LUT и пользовательские значения LUT для параметра Monitor LUT отображаются совместно на экранах Main Status и Monitoring Status.

Поддерживается формат именования файлов Camera ID + № катушки

В список возможных значений для параметра Clip Name Format >Auto Naming в меню TC/Media добавлен вариант Cam ID + Reel#.

Указав значения Camera ID, Reel Number и Camera Position, можно формировать удобные в управлении, уникальные имена файлов.

Поддерживается расширение отображения в видоискателе

Отображение с расширением изображения можно настроить с помощью параметра VF Setting в меню Monitoring. Расширенное изображение можно просматривать в видоискателе при использовании анаморфотного объектива 2.0x или 1.3x.

Поддерживает отображение простого изображения SDR в видоискателе при съемке в HDR

Простое отображение SDR позволяет вести съемку в HDR с тем же ощущением настройки экспозиции, что и при съемке SDR.

- Когда в меню Project параметру Base Setting >Shooting Mode задано значение HDR, а параметру HDR Setting >VF SDR Preview — значение On, к изображению в видоискателе применяется настройка SDR Gain.
- Яркостью заснятого изображения HDR можно управлять, изменяя значение параметра HDR Setting >SDR Gain.

Расширенная информация метаданных файла прокси

Информация о формате основного изображения также записывается в виде метаданных для файла прокси.

Поддерживается запись и передача файлов прокси по частям

Файл прокси, записываемый одновременно с основным файлом, может сохраняться частями заданной длины, при этом части файла прокси могут последовательно передаваться во время выполнения записи.

Простое подключение к portalу C3 Portal с помощью приложения C3 Portal App

Можно с легкостью переносить файлы в облачную службу C3 Portal, связав устройство с приложением для смартфонов C3 Portal App.

Улучшения с именем пользователя/паролем для сетевой функции

В меню Network к команде Access Authentication добавлены опции автоматического генерирования пароля (Generate Password) и отображения настроек (Show Settings).

[Примечание]

Обновление устройства приведет к удалению настроенного пароля.

Важнейшие функции, обновленные в версии 2.1

Поддержка выходного видеосигнала RAW 3840×2160

К параметру RAW Output Format добавлена поддержка 3840×2160 для функции вывода RAW, которая активируется, когда к видеокамере присоединен блок расширения XDCA-FX9 (приобретается дополнительно).

Ее можно выбрать, когда для параметра Imager Scan Mode установлено значение S35 4K, для параметра Codec - значение RAW. Также, когда для параметра RAW Output Format установлено значение 3840×2160, можно активировать функцию Slow & Quick Motion с частотой кадров 100P или 120P.

Улучшение настройки White Balance

Настройку White Balance на солнечном свете теперь легче выполнить, также легче выполнить настройку на более естественный цвет.

Важнейшие функции, обновленные в версии 2.0

Добавлены варианты выбора формата записи

- К режиму Rec Format >Imager Scan Mode в меню Project добавлен вариант FFcrop 5K.
- Если для режима Imager Scan Mode задан вариант FF 6K, FFcrop 5K или S35 4K, теперь для параметра Video Format можно задать значение 4096×2160.
- К параметру Rec Format >Frequency в меню Project добавлен вариант "24".

[Примечание]

Настройка 4096×2160 для параметра Video Format поддерживается только в том случае, если для режима Imager Scan Mode задан вариант FF 6K, FFcrop 5K или S35 4K.

Поддержка пользовательской таблицы соответствия User 3D LUT

Теперь можно загрузить файл CUBE (*.cube) для 17-точечной или 33-точечной таблицы соответствия 3D LUT, созданный с помощью программы RAW Viewer или DaVinci Resolve (от компании Blackmagic Design Pty. Ltd.).

Поддержка выходного видеосигнала RAW

Выходной видеосигнал RAW можно выводить на разъем RAW OUT установленного на видеокамеру блока XDCA-FX9 (приобретается дополнительно).

Поддержка широкого динамического диапазона (HDR)

Поддерживается Hybrid Log Gamma (HLG), что позволяет вести съемку с расширенным динамическим диапазоном.

Предусмотрены HLG двух типов.

— Natural: характеристика, соответствующая ITU-R BT.2100(HLG).

— Live: характеристика, соответствующая ITU-R BT.2100(HLG), обеспечивающая улучшенное воспроизведение HDR.

При выборе HDR цветовое пространство расширяется до эквивалента ITU-R BT.2020.

Добавлены варианты частоты кадров для съемки с замедлением/ускорением движения

Добавлены варианты частоты кадров 150fps и 180fps, когда для режима Rec Format >Imager Scan Mode в меню Project задан вариант FF 2K.

Расширение диапазона настройки параметров ISO/Gain

Расширен диапазон настройки параметров ISO и Gain, когда для режима Base Setting >Shooting Mode в меню Project задан вариант SDR или HDR.

— Когда для режима настройки усиления задан вариант ISO, возможна настройка до максимального значения ISO 102400.

— Когда для режима настройки усиления задан вариант dB, возможна настройка до значения 27dB.

Усовершенствования функции AF

- Теперь поддерживается фокусировка не только при обнаружении лиц, но и при использовании обнаружения глаз людей.
- Когда для параметра Focus Area задано значение Flexible Spot или Zone, рамку области фокусировки теперь можно перемещать при помощи операции прикосновения.
- Скорость изменения AF и чувствительность к смене объекта AF теперь можно назначать программируемым кнопкам.
- В режиме Cine EI улучшена работа AF с обнаружением лиц и глаз, когда для параметра Gamma задано значение S-Log3.

Поддержка изменения настроек на экране состояния

Некоторые настройки можно изменять на экране состояния. Элементы можно выбирать с помощью многофункционального диска, многофункционального селектора или операции прикосновения.

Поддержка выходного сигнала 6G SDI

Сигналы с разрешением 4K/QFHD теперь можно выводить на разъемы SDI OUT, когда задана частота системы 29.97, 25, 24 или 23.98.

Усовершенствования функции записи звука

- Можно использовать беспроводной микрофон, подключив портативный беспроводной тюнер к гнезду для вставки приемника беспроводной связи установленного на видеокамеру блока XDCA-FX9 (приобретается дополнительно). Поддерживаются портативные беспроводные тюнеры следующих двух моделей.
 - Тюнер с поддержкой разнесенного приема в UBC-диапазоне URX-S03D
 - Цифровой приемник радиомикрофона DWR-S02DN
- Поддерживается цифровой интерфейс комплекта адаптера XLR XLR-K3M, подсоединенного к многоцелевому разъему видеокамеры.

Поддержка подключения с помощью кабеля USB

Теперь можно подключить смартфон через кабель USB к установленному на видеокамеру блоку XDCA-FX9 (приобретается дополнительно), что позволяет подключать видеокамеру к Интернету с помощью смартфона.

Поддержка значений T диафрагмы

Индикатор диафрагмы теперь отображает значения T при условии установки объектива, поддерживающего отображение значений T.

Усиление безопасности при использовании паролей

Пароли, используемые для основной аутентификации, теперь для усиления безопасности должны содержать 8 или более символов, в том числе по меньшей мере один буквенный и один цифровой соответственно.

Улучшение качества изображения в режиме Imager Scan Mode S35 2K

Улучшено качество изображения, когда для режима Rec Format >Imager Scan Mode в меню Project задан вариант S35 2K.

4.0版中更新的主要功能

C3 Portal集成改进

- 支持3D LUT文件的云服务管理。
现在，您可以将应用程序生成的3D LUT文件从云服务导入摄像机。这样即可使用云服务管理您喜欢的3D LUT文件。
- 支持全部文件的云服务管理。
可以将摄像机的全部文件保存到云服务，并从云服务将文件加载到摄像机。这样即可使用云服务管理多个不同的全部文件。
- 支持自动加载原始文件。
此前，必须为创建备份腾出时间，因为在拍摄完成后通常必须集体完成备份，但是在拍摄每个片段后，原始文件的自动传输功能会将原始文件备份到云服务。

拍摄工作流程改进

现在可以将LUT数据（Cube数据）录制为元数据。
当录制到录制媒体时，现在可以同时保存在拍摄时应用到显示器图像的LUT数据（Cube数据）。这样即可节省在后处理过程中管理LUT数据链接的时间。

支持音频电平表CH1/CH2和CH3/CH4指示器切换

现在可以使用“音频”菜单中的“音频输出>监视CH”在CH1/CH2指示器和CH3/CH4指示器之间切换屏幕上显示的音频电平表。

支持使用可指定按钮切换音频监视通道

现在可以将音频监视通道设置分配给可指定按钮。可以通过分配“音频监视CH”和“音频监视CH开关”来选择任何音频监视通道。

支持可指定按钮LED指示

现在，当分配给可指定按钮的功能变为有效或在其他情况下，可以指示置入每个可指定按钮的LED。有关LED指示的详细信息，请参阅使用说明书。

切换慢&快动作录制设置时更改为Proxy录制控制

当“Proxy录制”为“开”且“S&Q Motion”设为“开”时，“Proxy录制”会暂时设为“关”。当“S&Q Motion”设为“关”时，“Proxy录制”会再次设为“开”。

3.0版中更新的主要功能

增加了影像传感器扫描模式选择选项

- 在“项目”菜单的“录制格式>影像传感器扫描模式”中增加了S16 2K选项。视频格式为1920 × 1080P和1920 × 1080i时，可以选择S16 2K。可以为慢&快动作录制拍摄选择1至60、100、120、150和180 fps的帧速率。
- [注意]
在首次以150 fps以上的帧速率使用S16 2K选项拍摄前，请运行“拍摄”菜单中的“自动黑平衡”。
- 支持LA-EB1（选件）。如果已安装LA-EB1且影像传感器扫描模式设为S16 2K，则可以使用B4镜头。

- [注意]
要使用LA-EB1（选件），请将XDCA-FX9（选件）连接到本机，并在DC OUT接口（4针圆头型）和DC IN接口之间连接随附的直流电缆。
- 可以使用分配了裁剪选择功能的可指定按钮快速更改拍摄角度。

通过以太网支持S700协议

将XDCA-FX9（选件）连接到本机，并在有线LAN接口和遥控面板之间连接LAN电缆后，即可从遥控面板控制拍摄操作。
支持下列遥控面板。
— RCP-1500/1501/1530
— RCP-3100
— RCP-3500/3501

自动对焦功能改进

- 支持针对指定被摄物体进行实时跟踪AF。可以在MF和AF期间使用实时跟踪AF。
- 手动对焦期间，支持通过触摸操作对指定位置中的被摄物体进行点对焦。
“拍摄”菜单中的“对焦>MF中的触摸功能”设为“点对焦”时，可以使用此方法。
- 在手动对焦期间，支持通过对焦标记来表示相对于参考对焦位置的移动。

状态屏幕功能改进

- 可以选择单个状态屏幕进行显示。
可以使用“技术”菜单中的“状态页开/关”来显示/隐藏状态屏幕。
- 用于选择设置的项目已添加到状态屏幕中。
添加了下列项目。
— 主状态屏幕：S&Q帧速率
— 相机状态屏幕：斑马线1、斑马线2
— 项目状态屏幕：录制功能、缓存录制>缓存录制时间、Proxy录制>Proxy格式
- 主状态屏幕和监看状态屏幕会同时显示显示器LUT的预设LUT和用户LUT选择选项。

支持Cam ID + Reel#格式文件命名

“Cam ID + Reel#”选项已添加至“TC/媒体”菜单中的“片段名称格式>自动命名”。
通过指定相机ID、卷盘编号和相机位置，可以创建易于管理的唯一文件名称。

支持寻像器中的反挤压显示

可以使用“监看”菜单中的寻像器设定配置反挤压。
安装2.0 × 或1.3 × Anamorphic镜头时，可以在寻像器中看到反挤压图像。

在HDR模式下拍摄时支持简单的SDR寻像器显示

简单的SDR显示使HDR模式下的拍摄具有与SDR模式下拍摄时相同的曝光调整感觉。
— “项目”菜单中的“基本设置>拍摄模式”设为“HDR”且“HDR设置>寻像器SDR预览”设为“开”时，SDR亮度增益设置将应用于寻像器图像。
— 通过更改“HDR设置>SDR亮度增益”设置，可以控制捕获的HDR图像的亮度。

扩展Proxy文件元数据信息

主图像的格式信息也会被录制为Proxy文件的元数据信息。

支持Proxy文件的录制和短片段文件传输

同时录制的Proxy文件可以按设定的持续时间录制为短片段，并且短片段Proxy文件可以在录制过程中按顺序传输。

使用C3 Portal App实现简单的C3 Portal连接

通过将本机与“C3 Portal App”智能手机应用程序链接，可以轻松地将文件传输到C3 Portal云服务。

用户名/密码网络功能改进

在“网络”菜单的“接入验证”中增加了自动生成（生成密码）和显示设置（显示设置）。

[注意]
更新本机将删除已配置的密码。

2.1版中更新的主要功能

支持3840 × 2160 RAW输出

在将XDCA-FX9(选件)连接到摄像机时启用的RAW输出功能的RAW输出格式中, 增加了对3840 × 2160的支持。

当“影像传感器扫描模式”设置为“S35 4K”且“编解码器”设置为“RAW”时, 可以选择此项。同样, 当“RAW输出格式”设置为“3840 × 2160”时, 可以在将帧速率设置为“100P”或“120P”的情况下启用“慢&快动作录制”。

白平衡调整改进

在日光下调整白平衡变得更加容易, 也可以调整为更加自然的颜色。

2.0版中更新的主要功能

增加了录制格式选择选项

- 在“项目”菜单的“录制格式>影像传感器扫描模式”中增加了FFcrop 5K选项。
- 当“影像传感器扫描模式”设置为FF 6K、FFcrop 5K或S35 4K时, 此时可将“视频格式”设置为“4096 × 2160”。
- 在“项目”菜单的“录制格式>频率”中增加了“24”选项。

[注意]

仅当“影像传感器扫描模式”设置为FF 6K、FFcrop 5K或S35 4K时才支持“视频格式”设置“4096 × 2160”。

支持User 3D LUT

现在可以加载使用RAW Viewer或DaVinci Resolve(由Blackmagic Design Pty. Ltd.开发)创建的针对17点或33点3D LUT的CUBE文件(*.cube)。

支持RAW输出

现在可以从安装到摄像机的XDCA-FX9(选件)的RAW OUT接口输出RAW视频信号。

支持高动态范围(HDR)

支持Hybrid Log Gamma (HLG)以在扩大的动态范围内进行拍摄。

以下两种类型的HLG可用。

—Natural : 符合ITU-R BT.2100(HLG)的特性。
—Live : 符合ITU-R BT.2100(HLG)的特性, 可提供改进的HDR性能。

当选择HDR时, 会将色彩空间扩大到与ITU-R BT.2020相等。

为“慢&快动作录制”增加了帧速率选项

当“项目”菜单中的“录制格式>影像传感器扫描模式”设置为“FF 2K”时, 为帧速率增加了150fps和180fps选项。

扩展了ISO/增益可配置范围

当“项目”菜单中的“基本设定>拍摄模式”设置为“SDR”或“HDR”时, 扩展了“ISO”和“增益”的可配置范围。

—当增益设置模式设置为“ISO”时, 可以配置最大ISO 102400的值。

—当增益设置模式设置为“dB”时, 可以配置高达27dB的值。

AF功能改进

- 现在不仅支持使用人脸检测进行对焦, 还支持使用人眼检测进行对焦。
- 当“对焦区域”设置为“自由点”或“区”时, 可以使用触摸操作移动对焦区域框。
- 现在可以将AF过渡速度和AF物体转换灵敏度分配给可指定按钮。
- 在Cine EI模式中, 改进了当“伽马”设置为“S-Log3”时的人脸/眼部检测AF性能。

支持从状态屏幕更改设置

可以从状态屏幕修改某些设置。可以使用多功能拨盘、多项选择器或通过触摸操作来选择项目。

支持6G SDI输出

当系统频率设置为29.97、25、24或23.98时, 现在可以从SDI OUT接口输出4K/QFHD分辨率信号。

音频功能改进

- 通过在安装到摄像机的XDCA-FX9(选件)的无线接收器插入插槽中插入便携式无线调谐器, 可以使用无线麦克风。支持下列两种型号的便携式无线调谐器。
—URX-S03D无线音频接收单元
—DWR-S02DN数字无线接收器
- 支持安装到摄像机多接口热靴的XLR-K3M XLR适配器套件的数字接口。

支持USB Tethering连接

现在可以通过USB电缆将智能手机连接到安装到摄像机的XDCA-FX9(选件)上, 从而可以使用智能手机将摄像机连接到互联网。

支持光圈T值

当安装了支持T值显示的镜头时, 现在光圈指示器会显示T值。

密码安全性增强

为提高安全性, 现在用于基本验证的密码必须至少为8个字符或更长, 且分别包含至少一个字母数字字符和一个数字字符。

改善了S35 2K影像传感器扫描模式中的图像质量

改善了当“项目”菜单中的“录制格式>影像传感器扫描模式”设置为“S35 2K”时的图像质量。